

## 原著論文

マイマイガの天敵寄生蜂, マイマイガチビアメバチ (新称)  
*Phobocampe lymantriae* Gupta, 1983 とベレックチビアメバチ (新称)  
*Hyposoter vierecki* Townes, Momoi & Townes, 1965  
 (ヒメバチ科: チビアメバチ亜科) の本州からの新記録

Two Ichneumonid Parasitoids of Gypsy moth, *Phobocampe lymantriae* Gupta, 1983, and *Hyposoter vierecki* Townes, Momoi and Townes, 1965 (Hymenoptera: Ichneumonidae: Campopleginae), New to Honshu, Japan.

渡辺恭平<sup>1)</sup>

Kyohei WATANABE<sup>1)</sup>

**Abstract.** Two parasitoid wasps of *Lymantria dispar* (Linnaeus) (Gypsy moth), *Phobocampe lymantriae* Gupta, 1983, and *Hyposoter vierecki* Townes, Momoi and Townes, 1965, are recorded from Honshu for the first time. The undetermined species of *Hyposoter* sp. proposed by Minami et al. (1993) is determined as *H. vierecki*. Both parasitoids make the characteristic cocoon, i.e., suspended cocoon (*P. lymantriae*) and cocoon inside host's mammy (*H. vierecki*). The cocoons of *P. lymantriae* and *H. vierecki* were highly attacked by two hyperparasitoid wasps, *Gelis areator* (Panzer, 1804) and *Brachymeria hime* Habu, 1960. The record of *B. hime* is the first record of secondary parasitism by this species.

**Key words:** cocoon, forest pest, koinobiont, endoparasitoid, natural enemy

## はじめに

マイマイガ *Lymantria dispar* (Linnaeus, 1758) (英名: Gypsy moth) は、ドクガ科に属する広食性の森林害虫である。旧北区に広く分布し、北米東部にはヨーロッパから侵入した系統が分布する。時に大発生し森林や果樹に甚大な影響を与えることがあるため、国際自然保護連合 (IUCN) によって世界の侵略的外来種ワースト 100 にも

指定され、特にアジア系統の北米等への侵入が警戒されている。本種の生態については様々な角度から研究が行われ、寄生蜂についても比較的良く調べられている。ヒメバチ科はマイマイガを宿主としている寄生蜂の中心をなし、世界からおおよそ 100 種が報告され、その多くが重要なマイマイガの天敵とされている (Gupta, 1983; Yu et al., 2012)。しかしながら、国内におけるマイマイガの寄生蜂相の調査は欧米に比べて断片的であり、北海道を除くと十分な報告がない。

マイマイガに寄生するヒメバチ科寄生蜂は 9 亜科にわたるが、その中でもチビアメバチ亜科とヒメバチ亜科、ヒラタヒメバチ亜科の 3 亜科の種数

<sup>1)</sup> 神奈川県立生命の星・地球博物館  
 〒250-0031 神奈川県小田原市入生田 449  
 Kanagawa Prefectural Museum of Natural History  
 499 Iryuda, Odawara, Kanagawa 250-0031, Japan  
 watanabe-k@nh.kanagawa-museum.jp

が多い。ヒメバチ亜科とヒラタヒメバチ亜科は寄主蛹より羽化し、寄主の幼虫時代に生じる被害は軽減できないが、チビアメバチ亜科は幼虫が生育しきる前に寄主を殺すため、寄生した世代の被害自体を軽減することができる。また、チビアメバチ亜科は内部寄生性飼い殺し型寄生者であるために寄主特異性が比較的高く、生物的防除を考える上で優れた一群である。しかしながら、本亜科は他の亜科と比べて種の識別が困難であり、国内の知見は極めて乏しい。

国内でマイマイガに寄生した記録のあるチビアメバチ亜科は6種である。桃井は1961年にスギハラチビアメバチ *Campoplex sugiharai* (Uchida, 1932) を熊本県から記録し、1963年に北海道から *Casinarina anastomosis* Uchida (= *Casinarina nigripes* (Gravenhorst, 1829)) を記録した (Momoi, 1961; 1963)。Gupta (1983) はマイマイガの寄生蜂を取りまとめ、上記2種に加えマツケムシチビアメバチ *Hyposoter takagii* (Matsumura, 1926)、*H. vierecki* Townes, Momoi & Townes, 1965、*Phobocampe lymantriae* Gupta, 1983、*P. uncinata* (Gravenhorst, 1829) の4種を報告している。このうち、*H. takagii* はマイマイガからの記録はあるものの (Gupta, 1983)、確実な寄主記録はいずれもマツカレハなどのカレハガ類である。他の3種は北海道 (東浦・上條, 1978)、中国 (Yan *et al.* 1994) および極東ロシア (Lee & Pemberton, 2010) において主要な寄生蜂とされている。しかし国内では *P. uncinata* の栃木県から一例の報告と戦前の疑わしい記録を除けば、いずれも北海道から数例が知られるのみである (東浦・上條, 1978; Gupta, 1983)。北海道以外の地域では、南ら (1999) が *Hyposoter sp.* を大阪府より記録しているが、種名については明らかになっていなかった。

2012年の5月と6月、近畿地方の生駒山地でマイマイガの大発生が起り、多数の幼虫が森林およびその周囲で歩き回る光景が確認できた。特に発生が酷かった東大阪市の枚岡公園では本種の大発生と同調し、天敵 (寄生者と捕食者) の個体数も増加が認められ、代表的な寄生者である捕食寄生蜂においても、繭が公園内のいたるところで確認できた。それらを持ち帰り飼育をしたところ、多数のチビアメバチと、それらの高次寄生者が確認できた。

本稿では、上記調査で得られたチビアメバチ亜科2種とその高次寄生蜂について記録を行い、今後の応用研究に向けてこれら寄生蜂の基本的な特

徴について解説を行う。

### 材料と方法

合計30個体の寄生蜂の繭を2012年の5月から6月にかけて採集した。うち28個体はぶら下がり型の繭で、残りの2個体はマミー型の繭であった。また、大阪府立大学昆虫学研究室に収蔵されている *Hyposoter sp.* (南ら, 1999) の繭5個体およびそれらから羽化した成虫個体も併せて比較・検討した。寄主昆虫はマミー型の繭はいずれもマイマイガであるが、ぶら下がり型の繭については、寄主の種名を明らかにすることができなかった。そのため、同所的に発生している他のチョウ目幼虫を寄主として利用している可能性もある。

採集した繭は小型のプラスチックケース (37×20 mm) を用いて室温で個別に管理した。羽化した寄生蜂は羽化後一日ほど活動させた後、殺虫処理し標本にした。観察は双眼実体顕微鏡 (Nikon SMZ800) 下で行い、写真は本顕微鏡の接眼レンズにコンパクトデジタルカメラ (RICOH CX-1) を近づけて撮影した。写真は画像編集ソフトウェア (Adobe Photoshop® CS3) を用いて編集した。形態用語は Townes (1969) に従った。標本は大阪府立大学収蔵標本の他はすべて神奈川県立生命の星・地球博物館に収蔵されている。KPM-NK は神奈川県立生命の星・地球博物館の標本登録番号である。

### 結果

得られたチビアメバチのうち、吊り下げ型の繭より羽化した種はいずれも *Phobocampe lymantriae* と同定された。また、一部の繭は高次寄生蜂である *Gelis areator* (Panzer, 1804) (ヒメバチ科トガリヒメバチ亜科) とヒメアシトコバチ *Brachymeria hime* Habu, 1960 (アシトコバチ科) の寄生を受けていた。マミー型の繭2個体からはチビアメバチは羽化せず、いずれもヒメアシトコバチが羽化した。マミーの形態から、この種は南ら (1999) で報告された *Hyposoter sp.* と同種であると考えられた。

南ら (1999) による *Hyposoter sp.* の標本を、Gupta (1983) を用いて詳細に検討した結果、本種はいずれも *Hyposoter vierecki* の記載と一致したため、本種と同定された。

*P. lymantriae*、*H. vierecki* および *G. areator* については標準和名がなく、従来学名のみが用いられてきたため、以下の解説と併せて新たに標準和名を提唱する。

記録と解説

ヒメバチ科 Ichneumonidae  
チビアメバチ亜科 Campopleginae

*Phobocampe lymantriae* Gupta, 1983

マイマイガチビアメバチ (新称)

(Figs. 1, 2, 5, 7, 9, 11, 13, 14)

*Phobocampe lymantriae* Gupta, 1983: 73.

[検視標本] Table 1 を参照。全て神奈川県立生命の星・地球博物館収蔵。

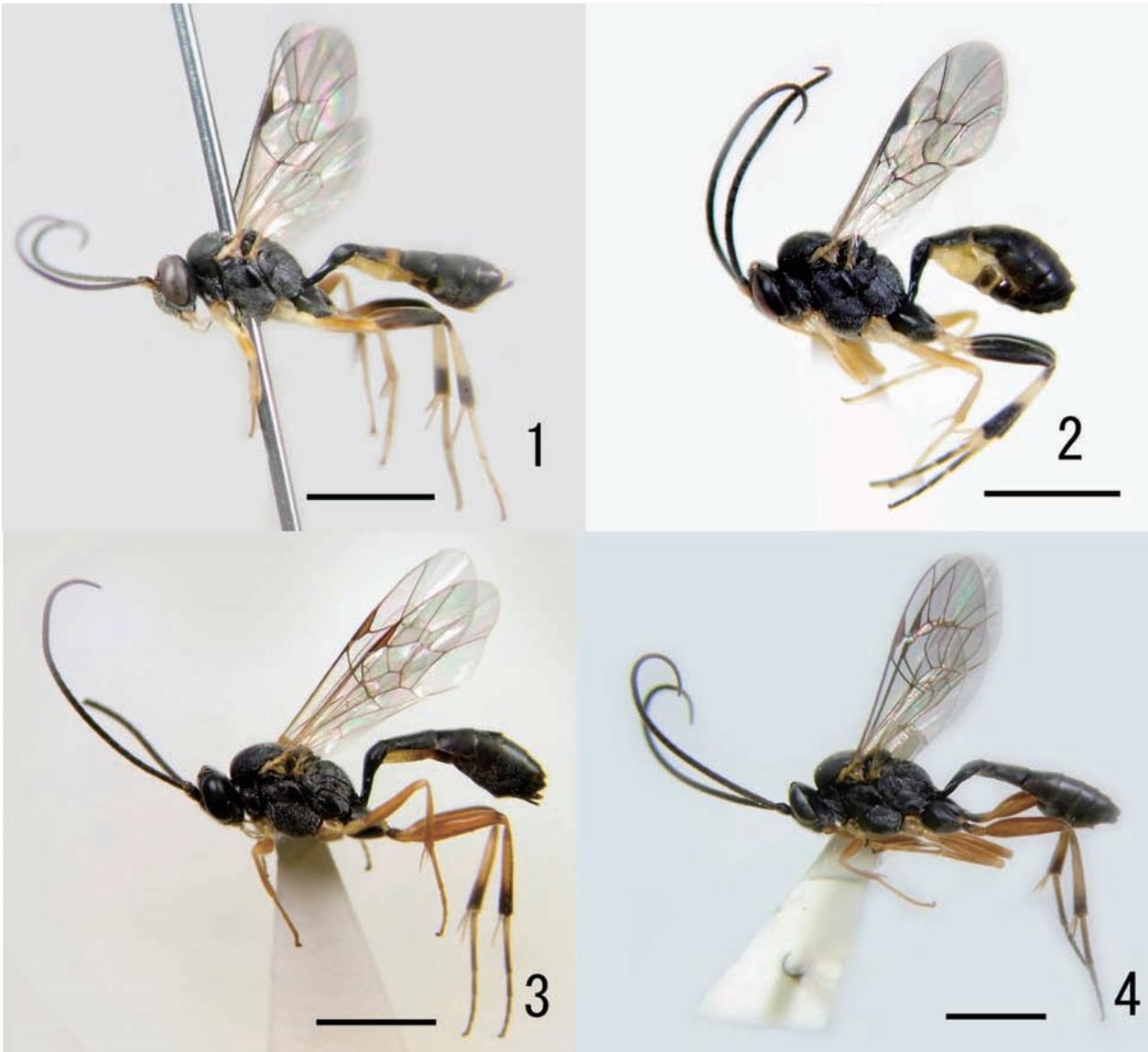
[解説] 計 28 繭より 5 ♀ 5 ♂ の本種成虫が羽化した。残りの繭のうち、8 つがヒメアシプトコバチ *Brachymeria hime* Habu, 1960 に、5 つがヤドリハネナシヒメバチ (和名新称) *Gelis areator* (Panzer, 1804) に寄生されていた。残りは羽化せ

ず、死亡が確認された。

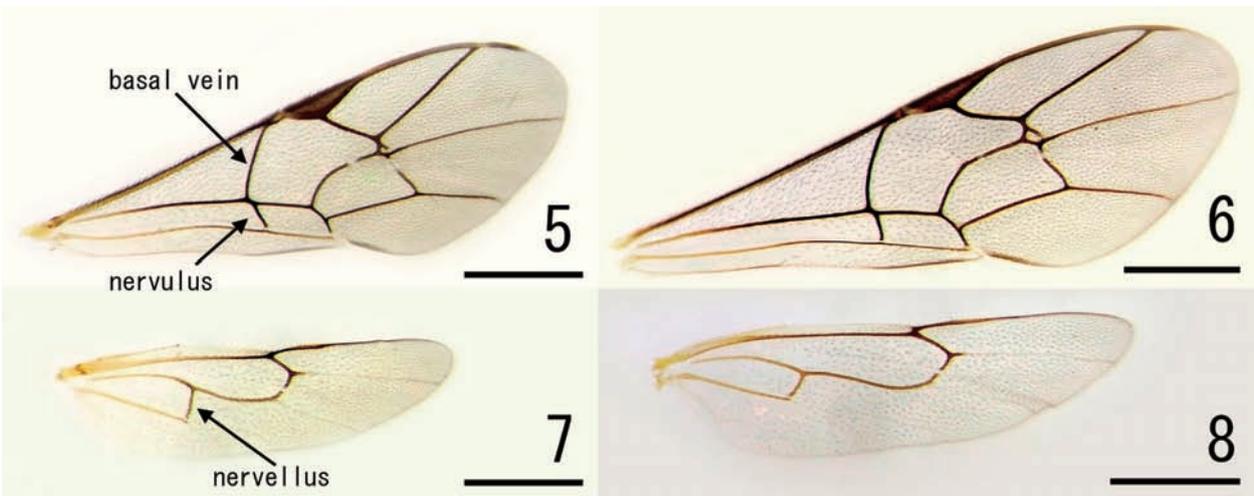
*P. lymantriae* は以下の形質状態の組み合わせによってマイマイガに寄生する他のチビアメバチ亜科各種から区別できる。体長 4.0 ~ 7.0 mm。頭盾前縁は裁断状で、中央の突起を欠く。マーラースペースの長さは大腿基部幅の 0.3 ~ 0.4 倍。前伸腹節の後方横隆起線は中央で広く不完全 (Fig. 9)。前伸腹節の中央縦隆起線と側方横隆起線は欠く (Fig. 9)。前翅翅脈 nervulus の基部は翅脈 basal vein の基部よりもわずかに先端方に離れ、翅脈 discoidal vein に対して 70 程度傾く (Fig. 5)。後翅翅脈 nervellus は中央に分岐を持たず、翅脈 discoidella は欠く (Fig. 7)。後脚脛節は黒色で、明瞭な白いバンドを持つ。後体節第 1 節は背板に明瞭なくぼみを欠き、背板と腹板を分割する縫合線は節の中央より下を走る (Fig. 11)。後体節第 1 背板は後方ではっきりと幅が広くなり、明

Table 1. Data of cocoons of *P. lymantriae*. KW: Kyohei Watanabe; SF, Shunpei Fujie; PL: *Phobocampe lymantriae*; GA, *Gelis areator*; BH, *Brachymeria hime*. The gray area indicates that cocoon attacked by hyperparasitoid (GA and BH).

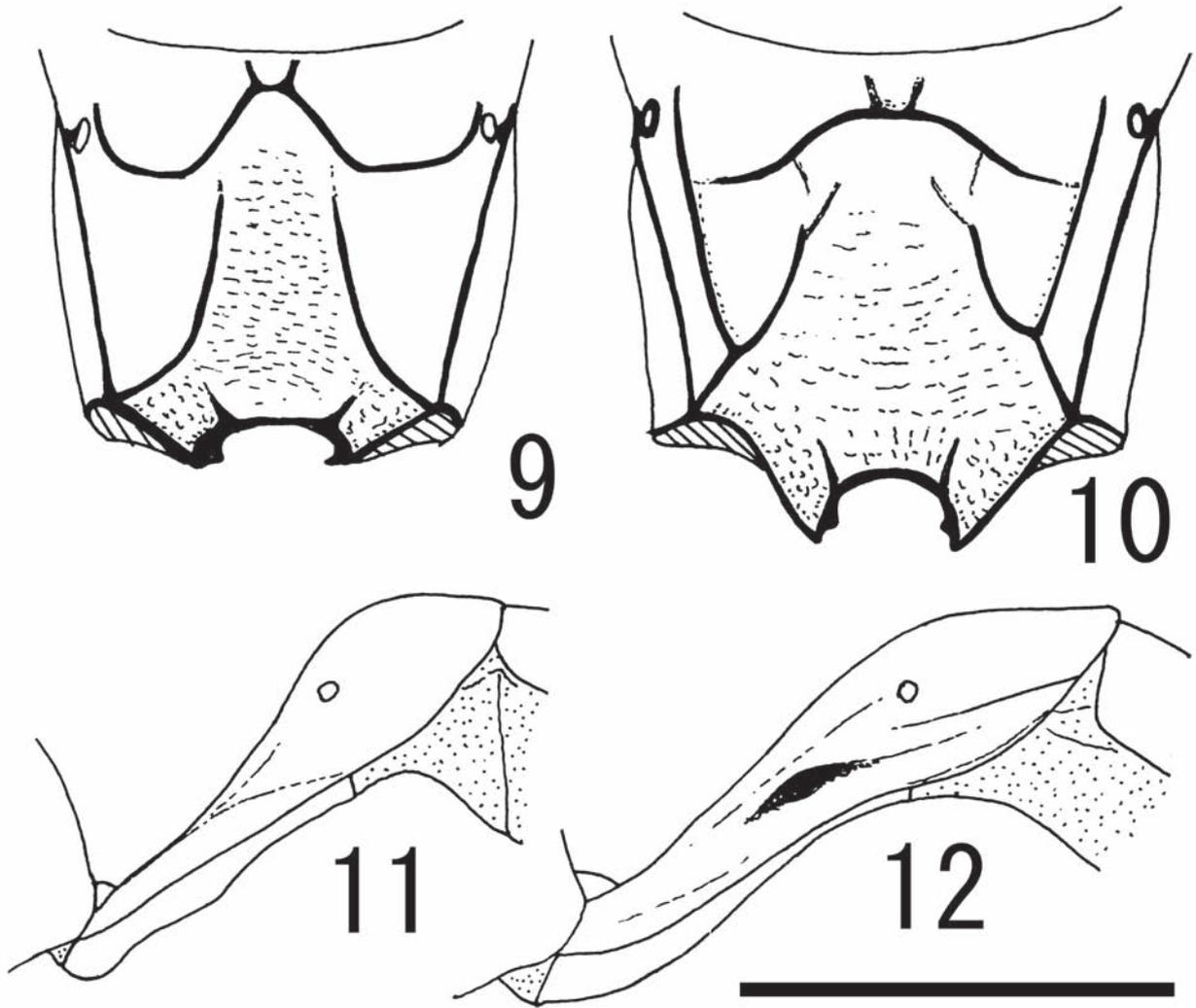
Specimen	Locality	Collector	Collecting data	Emergence data	Species	Sex
5001340	Hiraoka Park, Osaka	KW & SF	2012 May 18	2012 May 20	PL	♀
5001341	Hiraoka Park, Osaka	KW & SF	2012 May 18	2012 May 20	PL	♂
5001342	Hiraoka Park, Osaka	KW & SF	2012 May 18	2012 May 20	PL	♂
5001343	Hiraoka Park, Osaka	KW & SF	2012 May 18	2012 May 20	PL	♀
5001344	Hiraoka Park, Osaka	KW & SF	2012 May 18	2012 May 20	PL	♂
5001345	Hiraoka Park, Osaka	KW & SF	2012 May 18	2012 May 21	PL	♂
5001346	Hiraoka Park, Osaka	KW & SF	2012 May 18	2012 May 22	PL	♀
5001347	Hiraoka Park, Osaka	SF	2012 May 18	2012 May ==	PL	♂
5001348	Hiraoka Park, Osaka	KW & SF	2012 May 18	2012 May 23	GA	♀
5001349	Hiraoka Park, Osaka	KW & SF	2012 May 18	2012 May 23	GA	♀
5001350	Hiraoka Park, Osaka	KW & SF	2012 May 18	2012 May 26	GA	♂
5001351	Hiraoka Park, Osaka	SF	2012 May 18	2012 May ==	GA	♂
5001352	Hiraoka Park, Osaka	KW	2012 June 1	2012 June 3	GA	♂
5001353	Hiraoka Park, Osaka	KW & SF	2012 May 18	2012 May 26	BH	♂
5001354	Hiraoka Park, Osaka	KW & SF	2012 May 18	2012 May 26	BH	♂
5001355	Hiraoka Park, Osaka	KW & SF	2012 May 18	2012 May 30	BH	♂
5001356	Hiraoka Park, Osaka	KW & SF	2012 May 18	2012 May 30	BH	♀
5001357	Hiraoka Park, Osaka	KW & SF	2012 May 18	2012 May 31	BH	♀
5001358	Hiraoka Park, Osaka	KW & SF	2012 May 18	2012 June 3	BH	♀
5001359	Hiraoka Park, Osaka	KW & SF	2012 May 18	not emerged		
5001360	Hiraoka Park, Osaka	KW & SF	2012 May 18	not emerged		
5001361	Hiraoka Park, Osaka	KW & SF	2012 May 18	not emerged		
5001362	Hiraoka Park, Osaka	KW & SF	2012 May 18	not emerged		
5001363	Hiraoka Park, Osaka	KW	2012 June 13	not emerged		
5001364	Kobe University, Hyogo	KW	2012 May 23	2012 May 24	PL	♀
5001365	Kobe University, Hyogo	KW	2012 May 23	2012 June 3	BH	♂
5001366	Shinoharadai, Hyogo	KW	2012 May 29	2012 June 3	BH	♂
5001367	Obuchiike Park, Nara	SF	2012 May 13	2012 May ==	PL	♀



Figs. 1–4. Lateral habitus — 1, 2, *Phobocampe lymantriae* (1, ♀; 2, ♂) (KPM-NK 5001340, 5001345); 3, 4, *Hyposoter vierecki* (3, ♀; 4, ♂). Scale bar: 2.0 mm.



Figs. 5–8. Wings — 5, 7, *Phobocampe lymantriae* (5, fore wing; 7, hind wing) (KPM-NK 5001367); 6, 8, *Hyposoter vierecki* (6, fore wing; 8, hind wing). Scale bar: 1.0 mm.



Figs. 9–12. Propodeum, dorsal view (9, 10) and first metasomal tergite, lateral view (11, 12) — 9, 11, *Phobocampe lymantriae* (KPM-NK 5001340); 10, 12, *Hyposoter vierecki*. Each figure is omitted describing of granulate surfaces. Scale bar: 1.0 mm.

瞭に縁どられ、側方が隆起し、拡大部の長さは拡大部の幅よりも短く、中央付近が最大幅となる。後体節第2背板は黒色で狭い黄色部を持ち、その幅は♀では節の長さの0.3倍程度である (Fig. 1) が、♂では大抵ほとんど消失する (Fig. 2)。

繭は長さ6.2～6.5 mm、最大幅は2.1～2.6 mm。米俵型で、灰白色で複数の黒色紋を伴うが、中央付近は無紋 (Figs. 13, 14)。本種の羽化孔は通常繭の先端に作られるが、高次寄生者が羽化する場合は他の部位も含め様々な場所に孔をあける。本種の繭は灰白色地に黒紋を伴う点で水田害虫の天敵として著名なハウネンダワラチビアメバチ *Charops bicolor* (Szépligeti, 1906) に酷似しており、特に森林より得られた繭については、混同しないように注意する必要がある。

[分布] 北海道、本州 (初記録)；中国、ロシア、ヨーロッパ、北米 (導入)。

***Hyposoter vierecki* Townes, Momoi & Townes, 1965**

ベレックチビアメバチ (新称)

(Figs. 3, 4, 6, 8, 10, 12, 15)

*Campoplex* (*Diadegma*) *japonicus* Viereck, 1912: 636.

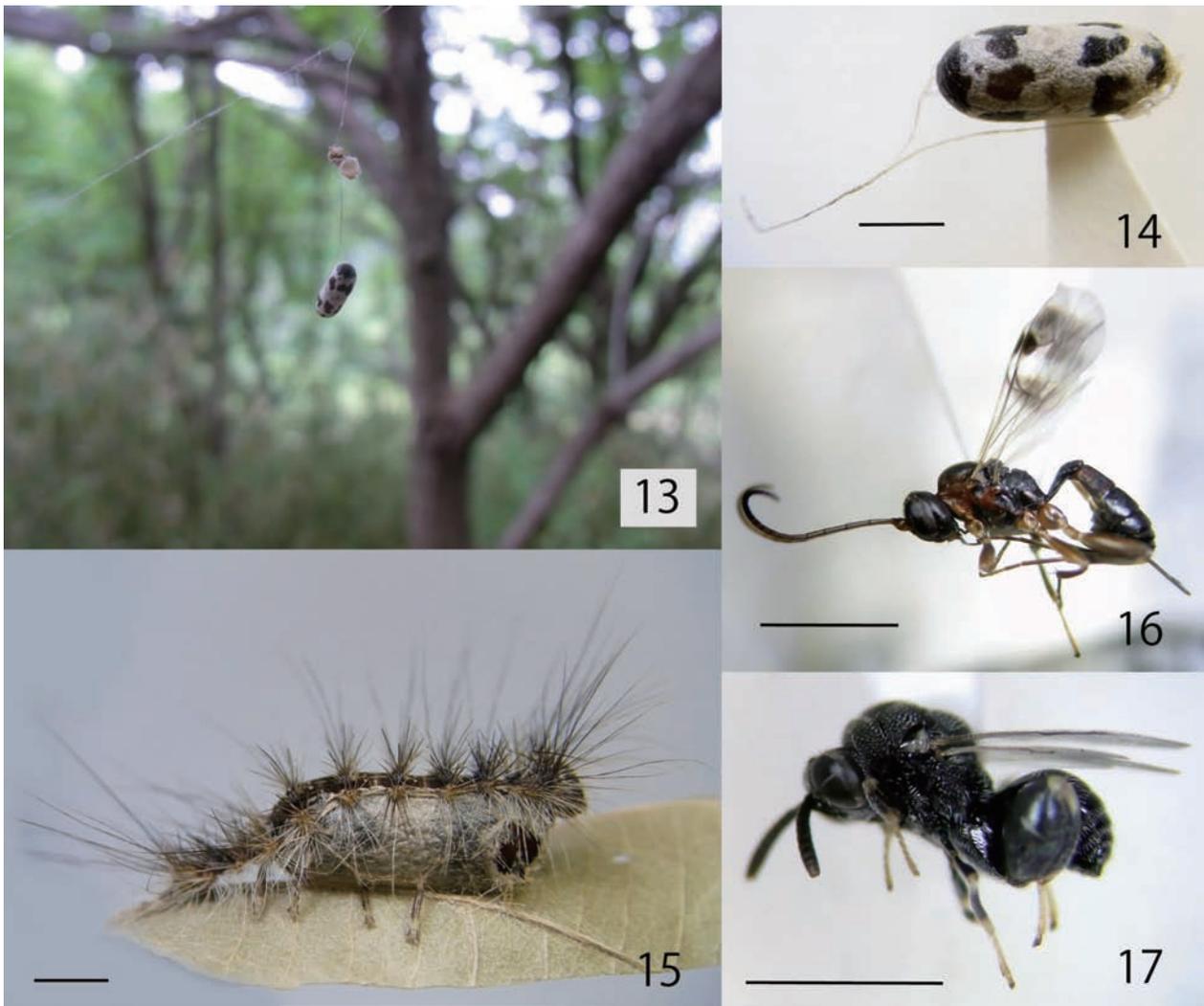
Name preoccupied by Cameron (1906).

*Hyposoter vierecki* Townes, Momoi & Townes, 1965: 302.

New name.

[検視標本] 1繭 (KPM-NK 5001368), 兵庫県加西市, 25. V. 2012, 渡辺恭平採集 (5. VI. 2012, ヒメアシプトコバチ羽化)；1繭 (KPM-NK 5001369), 和歌山県紀美野町田, 20. V. 2012, 藤江隼平採集 (ヒメアシプトコバチ羽化、羽化日不明)；4♀1♂ (いずれも脱出後の繭と一緒に保管) (大阪府立大学収蔵), 調査で得られた標本とのことであるが、データはなし。

[解説] 2012年に得られた計2繭はいずれもヒメ



Figs. 13-16. Cocoon and hyperparasitoids — 13, 14, *Phobocampe lymantriae* (14: KPM-NK 5001346); 15, *Hyposoter vierecki*; 16, *Gelis areator* (KPM-NK 5001348); 17, *Brachymeria hime* (KPM-NK 5001366). Scale bar: 2.0 mm.

アシフトコバチに寄生されていたため、成虫は得られなかった。ここでは大阪府立大学収蔵の繭を詳細に比較検討し、繭より羽化した成虫5個体（大阪府三草山産ならびに大阪府堺市大阪府立大学産）を基に種の同定を行った。

本種は以下の形質状態の組み合わせによってマイマイガに寄生する他のチビアメバチ亜科各種から区別できる。体長7.0～7.4 mm。頭盾前縁は裁断状で、中央の突起を欠く。マーラースペースの長さは大腮基部幅の0.6～0.7倍。前伸腹節の後方横隆起線は中央で広く不完全（Fig. 10）。前伸腹節の中央縦隆起線はほとんど欠くが、中央付近が弱い隆起によって認められることがある（Fig. 10）。側方横隆起線は存在する（Fig. 10）。前翅翅脈 *nervulus* の基部は翅脈 *basal vein* の基部とほぼ同じ位置か、わずかに先端方に離れる（Fig. 6）。後翅翅脈 *nervellus* は中央に分岐を持たず、翅脈 *discoidella* は欠く（Fig. 8）。前脚と中脚の基節と転節、第二転節は黄色（Figs. 3, 4）。後体節第1節は背板に明瞭

なくぼみを気門の前方に有し、背板と腹板を分割する縫合線は節の中央より下を走る（Fig. 12）。後体節第2背板は雌雄とも黒色（Figs. 3, 4）。

Gupta (1983) によると本種は前伸腹節の前方横隆起線は側方部で不完全であるとされるが、原記載（Viereck, 1912）では、完全であると図とともに記述されている。今回確認した標本の本形質はいずれも弱くはなるものの、見かけ上は完全であり（Fig. 10）、Gupta (1983) に記載された形質状態は少ないケースであると思われる。

繭は長さ7.5～8.0 mm、最大幅は3.5～3.6 mm（背負っている寄主殻は除く）。伸長した米俵型で、灰白色で少数の薄い黒色の紋を伴い、寄主の殻（マミー）を背面に背負う（Fig. 15）。本種の羽化孔は繭先端方の側面ないし背面にあけられるが、確認できた数が少なかったこともあり、傾向はとくに認められなかった。本種の繭は一見すると同属のマツケムシチビアメバチ *H. takagii* に似るが、成虫共々明らかに小型であるため、一見して識別

できる。南ら (1999) によると、マイマイガの 3～5 齢幼虫から脱出し、2 齢期に採集した幼虫にも寄生が認められたという。

[分布] 北海道、本州 (初記録) ; 中国。

### トガリヒメバチ亜科 Cryptinae

#### *Gelis areator* (Panzer, 1804)

ヤドリハネナシヒメバチ (新称)

(Fig. 16)

*Ichneumon areator* Panzer, 1804: 14.

[検視標本] 表 1 を参照。全て神奈川県立生命の星・地球博物館収蔵。

[解説] 寄主範囲は広く、様々な寄生蜂にもよく高次寄生する。今回の調査で寄生が確認されたマイマイガチビアメバチは寄主新記録である。本属の日本産種は分類学的にまとまっておらず、多数の不明種が存在するため、ここでは同定結果のみ報告する。

### アシプトコバチ科 Chalcididae

#### *Brachymeria hime* Habu, 1960

ヒメアシプトコバチ

(Fig. 17)

*Brachymeria hime* Habu, 1960: 144.

[検視標本] Table 1 と *H. vierecki* の頁を参照。全て神奈川県立生命の星・地球博物館収蔵。

[解説] 同定の資料は Habu (1960, 1962) を参照。今回の調査ではマイマイガチビアメバチとベレックチビアメバチのいずれの種にも高次寄生が認められた。これらはいずれも寄主新記録である。また、本種が高次寄生した例は従来報告されておらず、高次寄生例も新記録である。

### 考 察

2 種のチビアメバチは繭形態こそ異なるものの、いずれもヒメアシプトコバチとヤドリハネナシヒメバチに寄生されていた。多数の繭を採集できた東大阪市枚岡公園における高次寄生蜂 2 種による本種の被寄生率は 57.9 % (*B. hime* 31.6 %, *G. aerator* 26.3 %) であり、本種の個体数が大きく抑制されていることが示唆された。このことから、繭形態の違いは高次寄生者からの防衛にあまり影響がないように感じられた。

吊り下げ繭の糸はアリなどの捕食者からの防衛

に効果があると言われているが (Shirai & Maeto, 2009)、高次寄生者には無意味であることが示唆されたことから、吊り下げ糸は高次寄生蜂対策ではない可能性が考えられる。

マイマイガチビアメバチとベレックチビアメバチは、極東ロシアならびに中国における報告において、マイマイガの重要な天敵とされているが、北海道以外では確実な記録がなかったため、近畿地方にこれら寄生蜂の生息情報は間の地域 (東北地方、関東甲信越地方、北陸地方、中部地方) への分布を多少とも示唆する点においても重要であると考えられる。

### 謝 辞

神戸大学の前藤薫教授には、本稿作成にあたり多くの適切なお助言をいただいた。九州大学の広渡俊哉教授、大阪府の天満和久博士には大阪府立大学における標本調査において親切なお援助をいただいた。北海道大学の芳田琢磨氏にはヤドリハネナシヒメバチの同定に際しご助言をいただいた。神戸大学の藤江隼平、何祝清、藤井智久の各氏と広島大学の對馬佑介氏にはフィールドでの調査に協力をいただいた。皆様にこの場を借りてお礼申し上げる。本研究の一部は日本学術振興会科学研究費 (26840134) の援助を受けて行われた。

### 引用文献

- Gupta, V. K., 1983. The Ichneumonid parasites associated with the gypsy moth (*Lymantria dispar*). *Contributions to the American Entomological Institute*, **19**(7): 1–168.
- Habu, A., 1960. A revision of the Chalcididae (Hymenoptera) of Japan, with descriptions of sixteen new species. *Bulletin of the National Institute of Agricultural Sciences Series C*, **11**: 131–363.
- Habu, A., 1962. Chalcididae, Leucospidae and Podagrionidae (Insecta: Hymenoptera). *Fauna Japonica*, 183pp. Biogeographical Society of Japan, Tokyo.
- 東浦康友・上条一昭, 1978. マイマイガ大発生終息過程の死亡要因. 北海道林業試験場報告, **15**: 9–16.
- Lee, J. H. & Pemberton, R. W., 2010. Parasitoid complex of the Asian gypsy moth (*Lymantria dispar*) (Lepidoptera: Lymantriidae) in Primorye Territory, Russian Far East. *Biocontrol Science and Technology*, **20**: 197–211.
- Momoi, S., 1961. On some host-known ichneumonflies from Japan, with description of a new species (Hymenoptera: Ichneumonidae). *Kontyu*, Tokyo, **29**: 271–272.
- Momoi, S., 1963. New host records of Ichneumonidae of Japan and new homonymy. *Insecta matsumurana*, **26**: 54.

- 南 智子・石井 実・天満和久, 1999. 大阪の里山と都市緑地におけるマイマイガの寄生性天敵相. 日本応用動物昆虫学会誌, **43**: 169–174.
- Panzer, G. W. F., 1804. Faunae Insectorum Germanicae. Heft **92**: 5–8. **94**: 13–15. **95**: 13. Felssecker, Nürnberg.
- Shirai, S. & Maeto, K., 2009. Suspending cocoons to evade ant predation in *Meteorus pulchricornis*, a braconid parasitoid of exposed-living lepidopteran larvae. *Entomological Science*, **12**: 108–109.
- Townes, H., 1969. The genera of Ichneumonidae, part 1. *Memoirs of the American Entomological Institute*, **11**: 1–300.
- Townes, H., Momoi, S. & Townes, M., 1965. A catalogue and reclassification of the eastern Palearctic Ichneumonidae. *Memoirs of the American Entomological Institute*, **5**: 1–661.
- Viereck, H. L., 1912. Contributions to our knowledge of bees and Ichneumon-flies, including descriptions of twenty-one new genera and fifty-seven new species of Ichneumon-flies. *Proceedings of the United States National Museum*, **42**(1920): 613–648.
- Yan, J., Pemberton, R. W., Yao, D., Liu, H. & Li, G., 1994. Studies on the natural enemies of gypsy moth, *Lymantria dispar* (Lep.: Lymantriidae) in Dayi, Sichuan Province. *Forest Research*, **7**(3): 269–276.
- Yu, D. S., van Achterberg, K. & Horstmann, K., 2012. World Ichneumonoidea 2011. Taxonomy, biology, morphology and distribution. [Flash driver]. Taxapad®, Vancouver, Canada.

### 摘 要

渡辺恭平, 2015. マイマイガの天敵寄生蜂、マイマイガチビアメバチ (新称) *Phobocampe lymantriae* Gupta, 1983 とベレックチビアメバチ (新称) *Hyposoter vierecki* Townes, Momoi & Townes, 1965 (ヒメバチ科: チビアメバチ亜科) の本州からの新記録. 神奈川県立博物館研究報告(自然科学), (44): 79-86. [Watanabe, K., 2015. Two Ichneumonid Parasitoids of Gypsy moth, *Phobocampe lymantriae* Gupta, 1983, and *Hyposoter vierecki* Townes, Momoi and Townes, 1965 (Hymenoptera: Ichneumonidae: Campopleginae), New to Honshu, Japan. *Bull. Kanagawa prefect. Mus. (Nat. Sci.)*, (44): 79-86.]

近畿地方で得られた標本を基に、本州よりマイマイガチビアメバチ (新称) *Phobocampe lymantriae* Gupta, 1983 とベレックチビアメバチ (新称) *Hyposoter vierecki* Townes, Momoi & Townes, 1965 を初めて確認し、記録した。後者は南ら (1999) における *Hyposoter* sp. と同種である。両種とも重大な森林害虫であるマイマイガの天敵であるが、採集地ではかなりの高率で、アシプトコバチ科のヒメアシプトコバチ *Brachymeria hime* Habu, 1960 とヒメバチ科のヤドリハネナシヒメバチ (新称) *Gelis aerator* (Panzer, 1804) に寄生されていた。そのうち、ヒメアシプトコバチのチビアメバチ 2 種への寄生は、本種で初めての高次寄生例となる。

(受付 2014 年 10 月 27 日; 受理 2014 年 11 月 28 日)